

くまわかまる

阿新丸

父の仇討ちを果たし、竹によじ登って堀を飛び越えた物語

13歳の春、都を立ち佐渡にたどり着いて雑田（さわた）城主に父・日野資朝との対面を願い出たが許されず、幾日もしないうちに資朝卿は処刑され白木の箱となって阿新丸に届けられたのである。

雨風の激しい一夜をねらって館に忍び込み、父を処刑した城主の弟を討って館の外に逃れ、のち山伏・大膳坊の助けで海を渡り無事都に帰ったと言われている。

【日野資朝】後醍醐天皇の討幕計画に加わったために幕府に捕えられ、正中2年(1325)佐渡に流され雑田（さわた）城内の薬師堂に幽閉され43歳で処刑される

★世阿弥の謡曲「檀風」は約100年後、佐渡に流された世阿弥がこの物語を謡ったものである